

## 国際シンポジウム

### 「東アジアにおける美術・文化財情報のネットワーク化を考える」

#### 概要説明

#### 1. 趣旨

アート・ドキュメンテーション研究会は、1989 年の設立以来、美術・文化財(古美術)に関する情報活動、すなわちアート・ドキュメンテーションの諸問題に取り組んできました。

今まで 2 回、5 周年ごとに、「アート・ドキュメンテーション研究フォーラム」という大規模なシンポジウムを開催し、国外・国内から当該分野の指導的立場の人物を招き、国際・国内的にアート・ドキュメンテーションの諸問題を取り上げてきましたが、今回は、当研究会の 15 周年を記念する第 3 回「アート・ドキュメンテーション研究フォーラム」として、「東アジアにおける美術・文化財情報のネットワーク化を考える」という国際シンポジウムを企画致しました。

近年における情報技術の進展は、情報の管理とサービスに関する分野にも大きな影響を与えています。とりわけ電子図書館・博物館やデジタル・アーカイブなどの問題は、情報関連の諸分野を巻き込み、社会的にも大きな影響を与えています。

最近では、特にそのコンテンツの不足への対応策の確立が IT 技術の健全な発展のためにも不可欠の課題となっています。

このような状況の中で、わが国のアート系情報資源に関わっている諸分野では、美術・文化財情報資源のネットワーク化に関心が高まり、そこで、今回の国際シンポジウムを企画した次第です。

東アジア(日中韓)の美術作品・文化財は、密接に関係しています。

したがって、日本の美術・文化財研究には、日本の美術・文化財に関する情報のみならず、中国や韓国の美術・文化財に関する情報も必要になることは、いうまでもありません。

同様なことは、中国、韓国の美術・文化財研究についてもいえます。

それゆえ、東アジアで美術・文化財情報に関する国際的連

携や相互協力体制を構築し、これに関する情報をネットワーク化(共有化)することが求められているといえます。しかしながら、今迄、東アジアにおいてこのような動きは皆無といって良い状況であったことは、皆様ご承知のとおりです。

一方、欧州に目を転じると、この地域では、各国(もしくは、各美術館・博物館、各大学、各研究所)ごとに、美術・文化財情報に取り組む時代から、国を超えて、国際的連携や相互協力体制を組んで、美術・文化財情報をネットワーク化する時代に入りつつあります。

情報技術の発展により、国際的に美術・文化財情報をネットワーク化できる環境が整備されつつある今こそ、東アジアにおいても、美術・文化財情報のネットワーク化の問題を考えるべきではないでしょうか。

美術・文化財情報は、大きく二つに分けることができます。

一つは、美術作品・文化財そのものの情報です。

もう一つは、美術作品・文化財に関する記録情報(記録資料)です。前者については、美術作品・文化財データベース(含デジタル・アーカイブ)の構築という形で、これに対する取り組みが日中韓で進みつつあります。

後者の情報については、具体的には、図書や雑誌という形を取り、伝統的に、美術図書館、美術資料室などといわれるところで扱われてきました。

したがって、美術・文化財情報のネットワーク化という問題を扱う場合、美術作品・文化財データベースと美術図書館という二分野が対象となります。

理想的には、インターネット等を利用して、東アジアの美術作品・文化財情報やこれらに関する記録資料の書誌情報や全文が横断的に検索でき、美術図書館ネットワークを通じて、国を超えて、美術・文化財に関する記録資料を相互利用できるような相互協力体制を組めることが求められています。

しかしながら、現時点では、相互協力体制どころか、互いに互いの国のアート・ドキュメンテーションの実情すら知らないという状況にあるので、互いに互いの国の実情を知る

という作業から始めねばなりません。

そこで、今回は、日本、中国、韓国で、美術作品・文化財データベースの分野と美術図書館の分野でご活躍の方々を招き、それぞれの国の状況について発表してもらい、その後、これらの方々によるパネル・ディスカッションを行うことを通じて、3国のアート・ドキュメンテーションの実情を互いに理解し、今後の相互協力体制を構築するための礎を築きたいと考えています。

## 2 シンポジウムの構成

当シンポジウムは、2004年8月6日(金)、7日(土)の二日にわたって、兵庫県立美術館ミュージアムホールにて開催予定です。

同館は、西日本最大級の美術館として2002年にオープンしました。建物は国際的に有名な安藤忠雄氏の設計によるものです。ここは美術情報センター(美術図書館)も充実しており、年間約8万人の利用者があるといえます。当シンポジウムの参加者にとって、興味深い会場になるものと期待しています。

なお、シンポジウムの期間には、チャイナドリームという中国美術に関する展覧会も開催されます。

シンポジウムは3つのセッションに分かれます。

第1セッションは、東アジア(日中韓)の美術作品・文化財の関係性やこの地域における情報ネットワークの必要性を再確認するセッションです。発表者には、東アジアの美術展を担当し、この分野の美術作品に詳しい学会員を予定しています。

その上で、日中韓の美術図書館に関するセッションと日中韓の美術作品・文化財データベースに関するセッションを行います。

日中韓の美術図書館に関するセッション(第2セッション)では、それぞれの国のこの分野の専門家に、それぞれの国におけるこの分野の状況について発表してもらいます。このことを通じて、まず、互いに互いの国の状況を確認します。

ついで、この点を踏まえて、発表者によるパネル・ディスカッションを行い、今後の美術図書館の国際的な相互協力体制確立の可能性について議論します。

日中韓の美術作品・文化財データベースに関するセッション(第3セッション)も、前記のセッションと同様な構成をとります。すなわち、それぞれの国のこの分野の専門家に、そ

れぞれの国におけるこの分野の状況について発表してもらい、このことを通じて、まず、互いに互いの国の状況を確認します。

ついで、この点を踏まえて、発表者によるパネル・ディスカッションを行い、今後の相互協力体制確立の可能性や三国の美術作品・文化財情報を横断的に検索できるシステム構築の可能性について議論します。

## 3 招待者

・日中韓の美術と美術情報に関する発表者

越智裕二郎氏(兵庫県立美術館館長補佐)

・美術図書館に関する発表者・パネリスト

日本

水谷長志氏(東京国立近代美術館企画課主任研究官)

中国

朱寶虹氏(北京故宮博物院副館長 研究館員)

韓国

金達鎮氏(金達鎮美術研究所所長)

・美術作品・文化財データベースに関する発表者・パネリスト

日本

田良島哲氏(東京国立博物館事業部情報課情報管理室長)

中国

王春氏(中国美術館情報センター副研究員)

朱寶虹氏(北京故宮博物院副館長 研究館員)

韓国

孔逢錫氏(韓国文化観光部企画管理室情報化担当官 室電算事務官)

・司会者

美術図書館のセッション

波多野宏之氏(駿河台大学文化情報学部教授)

美術作品・文化財データベースのセッション

田窪直規氏(近畿大学教授 司書課程、学芸員課程 担当)

・海外招待者の連絡・調整、翻訳・通訳担当者

中国

李常慶氏(北京大学信息管理学部助教授)

韓国

崔錫斗氏(京畿大学文献情報学科待遇教授)